

## 令和元年度 優秀卒業論文賞総評

優秀卒業論文賞選考委員会 委員長 濱 本 明

### 1. 審査の方針と概要

審査は、推薦された卒業論文を形式と内容の両面から審査し、注記・参考文献の整備、論文としての体裁そして内容の卓越性を重視した。これらの審査方針に照らして、13編が合格と判定された。

### 2. 優秀卒業論文 13編の執筆者とタイトル（執筆者の五十音順）

- (1) アルウォヘビ・アブドラ「分散投資としての株式市場における負の相関関係の存在と有効性：DCCモデルによる実証分析」（相澤 朋子ゼミナール）
- (2) 植山 ももこ「税財政と資金調達の視点からの子育て支援策に関する考察」（平野 嘉秋ゼミナール）
- (3) 内田 大暁「任天堂のネットワーク戦略に対する考察」（坂本 義和ゼミナール）
- (4) 川村 裕太郎「地方銀行の役割変化とその歴史的背景，1868-2020～とくに秋田の銀行に関して～」(S.J.バイスウェイゼミナール)
- (5) 桑江 豊「仮想通貨に係る会計処理に関する一考察」（村井 秀樹ゼミナール）
- (6) 月精 尚輝「日本における果樹栽培が気候変化から受ける影響について」（山添 謙ゼミナール）
- (7) 小林 真子「流通菓子の物流における問題と提言」（秋川 卓也ゼミナール）
- (8) 榊原 理奈「香料文化の歴史と商品開発への影響」（小島 智恵子ゼミナール）
- (9) 佐々木 雪乃「東京オリンピックとグラフィック・デザインー1964年にみる戦後日本の歩みー」（服部 訓和ゼミナール）

(10) 田代 真綾「中高齢者の運転に関する研究～自動運転システムの利用意識調査～」  
(塚田 典子ゼミナール)

(11) 田中 美帆「Problems Regarding Women's Work-Life Balance (女性のワークライフバランスに関する問題点)」(金指 崇ゼミナール)

(12) 西尾 彩「発展途上国が貧困から抜け出すための開発～ラオスと中国の関係からの考察～」(山本 篤民ゼミナール)

(13) 藤田 光「公募増資による新株発行の不公正発行認定基準の検討ー上場会社の大株主が反対する裁判例を素材にー」(鬼頭 俊泰ゼミナール)

### 3. 全体の講評

今回、13 編もの多数の論文が優秀卒業論文賞として判定され、日本大学商学部のゼミナールの研究水準の高さを示すこととなった。これら 13 編の卒業論文は、いずれも研究論文としての体裁が整っており、優れた内容をもつものである。また、各専攻分野において旺盛な好奇心と問題意識をもち、今日的なテーマに取り組んでいる姿勢も評価できる。また、研究方法も、実証分析、フィールドワーク、歴史的 analysis、社会的 analysis など多様であって、人文・社会科学という学問の懐の深さを改めて認識させられた。

これら受賞論文は、論文要旨と講評が学部 HP に掲載され、かつ、製本された論文が図書館に長く保管されることになる。後輩の学生諸君が、先輩たちの力作を閲覧し、研究への情熱を喚起され、日本大学商学部のゼミナールの伝統が受け継がれていくことを願ってやまない。